

タイトル： ヨットマン 館山で交流 6か国から参加 14年ぶりレース

掲載日時： 2008年04月30日(水曜日) 20時00分

アドレス： <http://www.bonichi.com/News/item.php?iid=1205>



### 家族らサポーターは日本文化で

太平洋に面した6か国のヨットマンとその家族が集い、レースとともに交流を楽しむ「パシフィックリムヨットチャレンジ Tateyama2008」が30日、館山市を舞台に開幕した。姉妹都市のアメリカ・ベリンハム市など各国から来館した69人のゲストは、市内の若潮ホールで開かれた開会式に出席。各国5人のヨットマンたちは、さっそく館山湾でのレースに臨み、残る家族らサポーターは華道や琴、日本舞踊などの日本文化を体験した。

90年にベ市で始まった国際ヨットレースで、その後は同市と姉妹都市となっている6市(ほかにビクトリア市、ポートステイブンス市、タウロンガ市、ナホトカ市)で2年ごとに開催。館山では94年以来14年ぶり二度目のレースとなる。

前日までに館山入りし、市内のホームステイ宅で一夜を過ごしたゲスト一行は、楽しそうな表情で若潮ホールに集まってきた。6か国の国旗がはためくホール前庭で午前10時から始まった開会式では、主管するNPO館山外洋ヨットクラブの山口理事長や金丸館山市長が歓迎のあいさつ。金丸市長が英語でスピーチすれば、カナダのチームリーダーは日本語でお礼を述べるなど、なごやかムードに終始。家族らはこのまま同会場に残って、館山市側が用意した華道、日本舞踊、うちわ、琴、和紙人形、書道と日本文化の一端を体感。クルーたちは船形港へと向かい、さっそく4日間にわたるレースがスタートした。

【写真説明】 各国の国旗がはためく中での開会式=若潮ホールで